



# Abstracts

## 第2回 日本保育園保健学会 抄録集

- 会 場 京都大学医学部附属病院臨床第1講堂 (第1日)  
京都会館第2ホール (第2日)
- 会 頭 奥田六郎 (京都大学名誉教授)
- 会 期 平成8年9月21・22日

*The 2nd. annual meeting of  
The Japan Society for Well-being  
of Nursery-schoolers*

## ごあいさつ

第2回日本保育園保健学会 会頭 奥田 六郎

保育園の役割は、現在の我が国の少産少子の現状の中で乳幼児の低年齢受け入れが要望されるなど、段々大きくなってきています。保育園の職員は、これに応じて今まで以上に知識・技術・子どもの発するサインを受け取る能力が要請されます。第2回の本学会によって学会の方向づけが少し明瞭化するようになり、大変難しいことですが司会の先生方をお願いいたしました。園に関係する全ての職種の方々が、平素の疑問・経験・工夫などを遠慮なしに自分たちの学会として活発に発言していただけるようにリードすることを頼んであります。

学会の中での討論を通じて得られた種々の考え方を参加者が持ち帰り、自分の園ではどのように生かすか考えてゆくきっかけとなれば、本会をお世話するものとして大変嬉しく思います。

## ごあいさつ

日本保育園保健協議会 会長 巷野 悟郎

保育園における乳児保健の問題は、益々重視されるようになりました。

「保育年齢の低年齢化」「障害児保育」「一時保育」更に「乳幼児健康支援デイサービス事業」も注目されています。このような保育内容は昔の比ではなく、乳幼児保健の知識・技術を必要としてきています。また家庭保育との関係においては「夜更かし」が保育園の生活リズムに影響を及ぼすなどで、子どもの生理の基本的な発達の時期の問題まで、対応が迫られてきています。

昨年4月に、本協議会が保育保健に関係するあらゆる職種の方と一丸となって発足してから、この方面への関心が高まってきたことは、誠に喜ばしいことであります。平成7年に東京で開催された第1回日本保育園保健学会は、予想以上に全国から沢山の方々が参加して、会場には入れないほどであったという状態を迎えたのであります。

現在会員数は1500名を越えて、今回の第2回学会を京都で開催する運びとなりました。奥田会頭は、京都大学小児科名誉教授の御経歴からわかるように、小児科学の第一人者であり、本協議会の顧問として御指導を頂いています。その方が率先して、日本保育園保健学会を主催して下さることは、本協議会がこれからの社会的責任を全うする上で、誠に感謝の他ありません。

第2回日本保育園保健学会が、歴史の町・京都において盛大に挙行されますことを心から念じ、会員の皆様方と保育園の乳幼児保健のために、これからも力を尽くしていきたいと思っております。



# 第2回日本保育園保健学会 プログラム

日時： 平成8年9月21日（土） 16時00分～18時00分  
22日（日） 9時30分～15時30分

会場： 京都大学医学部附属病院臨床第1講堂（9月21日）  
京都市左京区聖護院川原町54  
TEL 075-751-3111（代）

京都会館第2ホール（9月22日）  
京都市左京区岡崎公園内  
TEL 075-771-6051

会費： 参加費（当日会費） 4,500円

交流会： 9月21日（土） 18時30分～  
京大会館 101号室  
会費 6,000円

研修会： 八瀬野外保育センター（P19参照）施設見学  
9月21日 10時～16時  
（11時・13時には案内致します）

会頭： 奥田六郎（京都大学名誉教授）

事務局： 細井 進（京都大学医学部小児科）

主催 日本保育園保健協議会  
後援 全国社会福祉協議会  
京都府医師会  
京都市保育園連盟  
京都府・京都市

第1日 9月21日(土) 日程

— 研修会 — 10:00 ~

— 開場 — 15:30 ~

学会開会の挨拶 16:00

第2回日本保育園保健学会 会頭 奥田六郎

— 総会 — 16:05 ~

特別講演 17:00 ~

座長 奥田六郎 (京都大学名誉教授)

『児童精神科の園長よりみた最近の保育と育児』

北畑英樹 (かしわ保育園園長)

— 初日終了 — 18:00

— 交流会 — 18:30 ~

第2日 9月22日(日) 日程

— 開場 — 9:00

開会の挨拶 9:30

坂口博之(京都市保育園連盟理事長)

シンポジウムⅠ 9:35～

「保育園における感染症に関する日常的諸問題」

座長 加藤静允、立石恭子(保育園医)

1、保母の立場から

清田満喜子(京都市住吉保育園)

2、皮膚科医の立場から

筏 淳二(前松下記念病院皮膚科部長)

3、小児科医の立場から

西尾利一(神戸市立中央市民病院小児科部長)

会頭講演 11:30～

座長 井澤 道(三重大学名誉教授)

「育児不安」

奥田六郎(京都大学名誉教授)

— 昼食 — 12:00～

「保育園におけるアトピー性皮膚炎と食物について」

座長 古庄巻史（京都大学医学部小児科教授）

1、アレルギー疾患を持つ子どもの保育園生活についての調査

岡 雅代（京都市上里竹の子保育園）

2、枚方市（公立保育所）における食物アレルギー児への取り組み

福崎祐子（枚方市立阪保育所）

3、除去食給食を行って

小出美代子（京都市大受保育園）

4、一保育園におけるアレルギー児への対応

中嶋祐子（熊本市シオン保育園）

5、アトピー性皮膚炎児における除去食および栄養指導

岩橋奈穂美（NTT九州病院アレルギー科）

6、除去食療法の経験 — アトピー性皮膚炎児の母親の立場から

柴山みちこ（京都市）

次期会頭挨拶

巷野悟郎（聖徳大学教授）

15:30

閉会の挨拶

清田満喜子（京都市保母会会長）